

## 1 評価目的

- ・「事業の実施状況の確認」、「目標達成状況」等の評価を行うことによって、より効果的、効率的に運行されることを目的とする。

## 2 評価の流れ

日程	令和元年6月17日 (愛知県バス対策協議会)	令和3年1月12日 (愛知県バス対策協議会)	令和3年2月15日 (国による第三者評価委員会)
対象路線	幹線系統補助路線	幹線系統補助路線	国庫補助対象路線
実施内容	計画申請	一次評価 (自己評価)	二次評価 (有識者による第三者評価)

※稲武地域バス・藤岡地域バスが該当する地域バス国庫補助路線(地域内フィーダー系統)については、令和2年12月第3回豊田市公共交通会議(書面開催)にて評価を実施済。

### 3 令和2年度 豊田市地域間幹線系統 国庫補助対象路線の評価（令和元年10月～令和2年9月）

#### 【第2回愛知県バス対策協議会（令和3年1月12日）における一次評価】

系統	収支率	利用者 (目標)	利用者 (実績)	状況	利用状況の考察と今後の方針	国庫補助金額
藤岡・豊田線 (加納経由)	25.0%	101,784人	80,410人	未達	<ul style="list-style-type: none"> <li>平日では日中、休日は終日の利用が少ない</li> <li>観光地(猿投山)と連携した利用促進の展開</li> </ul>	7,834,000円
小原・豊田線	38.3%	199,638人	157,711人	未達	<ul style="list-style-type: none"> <li>小原四季桜観光の利用者の増加</li> <li>区画整理に対応した路線改編を検討</li> </ul>	19,824,000円
藤岡・豊田線 (西中山経由)	47.9%	117,354人	91,734人	未達	<ul style="list-style-type: none"> <li>通学利用者が多い</li> <li>区画整理に対応した路線改編を検討</li> </ul>	6,502,500円
旭・豊田線	20.8%	91,817人	77,248人	未達	<ul style="list-style-type: none"> <li>接続駅での乗り継ぎ利用者増</li> <li>沿線観光地と連携した利用促進の展開</li> </ul>	11,239,000円
さなげ・足助線	23.6%	195,336人	169,953人	未達	<ul style="list-style-type: none"> <li>通学利用増等により利用者は増加傾向</li> <li>広瀬乗り継ぎを考慮したダイヤ改正の実施予定</li> </ul>	19,324,000円
下山・豊田線	37.9%	137,257人	120,900人	未達	<ul style="list-style-type: none"> <li>通勤、通学利用が多い</li> <li>松平郷など観光地と連携した利用促進を展開</li> </ul>	12,095,500円
高岡ふれあい 路線②	31.1%	119,839人	86,946人	未達	<ul style="list-style-type: none"> <li>通勤、通学利用者の減少</li> <li>渋滞を考慮したダイヤ改正の検討</li> </ul>	7,650,000円

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和3年 1月 12日

協議会名:愛知県バス対策協議会

評価対象事業名:陸上交通に係る地域公共交通確保維持改善事業(地域間幹線系統)

【交通圏】	①補助対象事業者等		②事業概要		③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況						⑥複数市町村を跨ぐ系統/幹線系統としての役割	⑦事業の今後の改善点(特記事項を含む)			
	運営主体	運行事業者	系統名	運行区間			【計画目標指標:利用者数】 A:達成 B:未達成 C:目標の半数にも満たず	輸送量(人)				収支率(%)					
								R2計画	R2実績	平均乗車密度	(運行回数)	R1実績			R2実績		
10豊田	豊田市	名鉄バス(株)	17 おいでんバス(旭・豊田線)	小渡～豊田市 【有民営方式車両購入費国庫補助金の交付対象】(1台)	交通系共通ICカードのODデータ取得による利用実態の把握と沿線やなでの飲み物サービスや、1日乗車券の販売を実施した。また、「広瀬」バス停での乗り継ぎを考慮した他路線にダイヤ改正を検討した。	A	補助対象期間の開始日から、運休や大幅な遅れもなく、所定の事業計画どおりの運行が実施された。	B	目標:91,817 実績:77,248(84.1%) ※前年度比80.9% 令和2年6月以降の利用者は回復傾向にあるものの、他路線と比較すると回復率が低い。在宅勤務の普及による通勤利用客の減少や沿線の観光地への外出機会の減少が要因の一つとして考えられる。	33.7	27.2	2.5	10.9	26.6	14.1	豊田市と旧旭町を跨ぐ利用者は、月平均930人で全体の11.7%と低い数値にとどまっているものの、市郊外から市中心部への通勤・通学手段として重要な役割を果たしている。また、広瀬バス停で乗降する利用者も一定数あり、バスを乗り継ぐ利用者もいると思われる。 《地域的・フィーダー的系統》 旭地域バス、小原地域バス、石野地域バス、藤岡地域バス	本路線は様々な観光施設や豊かな自然環境を有する地域を運行しており、こうした環境を生かした利用促進策を講じる必要がある。 新型コロナウイルス感染症の感染状況を考慮しながら、令和2年度の取組でもある、沿線広瀬やなでの飲み物サービスの実施や1日乗車券の販売などの利用促進策を検討する。
10豊田	豊田市	名鉄バス(株)	18 おいでんバス(小原・豊田線)	上仁木～豊田市 【有民営方式車両購入費国庫補助金の交付対象】(2台)	交通系共通ICカードのODデータ取得による利用実態の把握。また、1日乗車券の販売し、観光客のバス利用促進を図った。その他、バス情報のGTFS化を行った。	A	補助対象期間の開始日から、運休や大幅な遅れもなく、所定の事業計画どおりの運行が実施された。	B	目標:199,638 実績:157,711(79.0%) ※前年度比79.3% 令和2年6月以降の利用者数は回復傾向にあるものの、他路線と比較すると回復率が低い。通勤・通学時間帯は前年度並みに回復しているものの、夜間帯の利用者の減少が見られる。	80.0	63.8	5.5	11.6	51.5	31.7	豊田市と旧小原村を跨ぐ利用者は、月平均1,922人で全体の12.8%と低い数値にとどまっているものの、加茂丘高校～四郷間の利用が非常に多く、通勤・通学手段だけでなく鉄道への乗継としても重要な役割を果たしている。 《地域的・フィーダー的系統》 小原地域バス、藤岡地域バス	上仁木～加茂丘高校間は利用者が少なく、平日では日中時、休日では1日通して利用者が少ないため、鉄道駅への接続(愛知環状鉄道梅坪駅)と四郷地区区画整理に対応した経路の検討を行う。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況を考慮しながら、令和2年度の取組でもある小原四季桜まつり期間中の増便や1日乗車券の販売などの利用促進策を検討する。
10豊田	豊田市	名鉄バス(株)	19 おいでんバス(藤岡・豊田線(西中山経由))	藤岡中学校前～西中山～豊田市	交通系共通ICカードのODデータ取得による利用実態の把握。また、1日乗車券の販売し、観光客のバス利用促進を図った。その他、バス情報のGTFS化を行った。	A	補助対象期間の開始日から、運休や大幅な遅れもなく、所定の事業計画どおりの運行が実施された。	B	目標:117,354 実績:91,734(78.2%) ※前年度比79.7% 6月以降の利用者数は前年度比約8割まで回復しており、公共交通機関の利用が必要不可欠である学生の利用が多いことが伺える。	48.6	30.4	4.0	7.6	62.4	30.1	豊田市と旧藤岡町を跨ぐ利用者は、月平均7,192人で全体の66.9%を占めている。「加茂丘高校」での乗降が多く、通学に利用していることがうかがえる。 また、「梅坪駅」「四郷」「豊田市」バス停での乗降も多く、鉄道へ乗り継ぎをしていると思われる。 《地域的・フィーダー的系統》 藤岡地域バス	鉄道駅への接続と四郷地区区画整理に対応した路線の検討。 新型コロナウイルス感染症の感染状況を考慮しながら、令和2年度の取組でもある、1日乗車券の販売などの利用促進策を検討する。
10豊田	豊田市	豊栄交通(株)	51 おいでんバス(さなげ・足助線)	豊田厚生病院～百年草 【有民営方式車両購入費国庫補助金の交付対象】(2台)	交通系共通ICカードのODデータ取得による利用実態の把握を行った。また、1日乗車券の販売や沿線の広瀬やなでのバス利用者に対する飲み物サービスを実施し、利用促進に努めた。	A	補助対象期間の開始日から、運休や大幅な遅れもなく、所定の事業計画どおりの運行が実施された。	B	目標:195,366 実績:142,239(72.8%) ※前年度比70.9% 6月時点で利用者数は8割程度まで回復しており、他路線と比較すると早い回復であり、日常生活を送る上で公共交通機関の利用が必要不可欠である学生や高齢者の利用が多いことが伺える。	79.8	65.2	4.0	16.3	29.5	30.0	市町村を跨いでの利用者は月平均で6,572人と全体の約34%にとどまっているものの、中山間地域から市中心部への通勤・通学手段として重要な役割を果たしている。また、近年は市中心部から足助地区の高校へ通学する利用者も増えている。 《地域的・フィーダー的系統》 (豊田市)保見地域バス、(豊田市)石野地域バス、(豊田市)足助地域バス、(みよし市)さんさんバス	鉄道駅との乗継の利便性を高めるダイヤ改正及び車両の中型化を実施予定。 また、新型コロナウイルス感染症の感染状況を考慮しながら、令和2年度の取組でもある、沿線広瀬やなでの飲み物サービスの実施や1日乗車券の販売などの利用促進策を検討する。
10豊田	豊田市	豊栄交通(株)	50 おいでんバス(下山・豊田線)	大沼～豊田市 【有民営方式車両購入費国庫補助金の交付対象】(1台)	交通系共通ICカードのODデータ取得による利用実態の把握を継続して実施するとともに、9月から1日乗車券の販売し、観光客のバス利用促進を図った。	A	補助対象期間の開始日から、運休や大幅な遅れもなく、所定の事業計画どおりの運行が実施された。	B	目標:137,257 実績:120,900(88.1%) ※前年度比77.7% 6月時点で利用者数は前年度比約8割と、他路線と比較しても早い回復であり、学生の利用が多いことが伺える。実際、沿線高校に通う学生が利用する「鶴ヶ瀬」バス停の利用者は、前年より増加している。	68.4	74.2	6.4	11.6	50.1	48.1	豊田市と旧下山村を跨ぐ利用者は、月平均3,472人で全体の25.1%を占めている。「鶴ヶ瀬」バス停や「豊田市」バス停の利用が多く、通勤・通学手段として利用されていることがうかがえる。 《地域的・フィーダー的系統》 (名鉄バス)矢並線、(豊田市)よたおいでんバス(旭・豊田線、藤岡・豊田線、保見・豊田線など)	利用者の増加を目指すため、通勤・通学等の日常利用以外の観光目的での利用を促進していく必要があり、新型コロナウイルス感染症の感染状況を考慮しながら、令和2年度の取組でもある、1日乗車券の販売や沿線の松平郷などの観光地と連携した利用促進策の検討を行う。
10豊田	豊田市	豊栄交通(株)	49 おいでんバス(藤岡・豊田線(加納経由))	藤岡支所～豊田市 【有民営方式車両購入費国庫補助金の交付対象】(1台)	交通系共通ICカードのODデータ取得による利用実態の把握を継続して実施するとともに、9月から1日乗車券の販売し、観光客のバス利用促進を図った。また、交通結節である藤岡支所の整備を行った。	A	補助対象期間の開始日から、運休や大幅な遅れもなく、所定の事業計画どおりの運行が実施された。	B	目標:117,354 実績:80,410(68.5%) ※前年度比76.5% 6月以降の利用者数は回復傾向にあるものの、他路線と比較して利用者の回復率が少ない。在宅勤務が普及したことによる通勤利用客の減少や沿線の観光地への観光客の利用が減少が伺える。	46.3	35.0	3.1	11.3	35.5	30.4	豊田市と旧藤岡町を跨ぐ利用者は、月平均3,534人と全体の38.1%を占めている。市郊外から市中心部への通勤・通学手段として利用されている。また、昼間時においても、市郊外から市中心部への利用が一定数みられ、生活交通として重要な役割を果たしている。 《地域的・フィーダー的系統》 藤岡地域バス	平日では日中時、休日では1日通して利用者が少ないため、新型コロナウイルス感染症の感染状況を考慮しながら、令和2年度の取組でもある、1日乗車券の販売や地域医療センター・猿投神社・猿投山の登山口などの沿線施設や観光資源と連携した利用促進策を検討する。
10豊田	豊田市	高岡ふれあいバス	58 高岡ふれあいバス(路線②)	上丘町～知立駅	前林地域全戸アンケート結果等を踏まえ、土橋駅又は市中心部への延伸、基幹バス化などの方向性について検討した。また、知立市では、ミニバスガイドにおいて、同路線に接続可能であることを継続的に記載した。	A	補助対象期間の開始日から、運休や大幅な遅延はなく、所定の事業計画どおりの運行が実施された。	B	目標:119,839 実績:86,946(72.6%) ※前年度比73.1% 近年利用者数は減少傾向にあり、利用者の多くを占めている通勤・通学利用客の移動形態の変更や少子化に伴う通学者の減少が影響していると考えられる。	41.7	31.6	2.2	14.4	27.0	25.5	市を跨ぐ利用者は、1日平均222人で全体の93.0%と利用者の大部分を占めている。通勤・通学や通院・買い物等の手段として重要な役割を果たしていると考えられる。 《広域的・幹線的系統》 名古屋鉄道、(豊田市)高岡ふれあいバス、(知立市)ミニバス	土橋駅又は豊田市市中心部への延伸、基幹バス化等の方向性及び道路渋滞等の現状を踏まえ、ふれあいバス路線全体のルート・ダイヤ等の改編を行っていきたい。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和3年 1月 12日

協議会名:	愛知県バス対策協議会
評価対象事業名:	陸上交通に係る地域公共交通確保維持改善事業(地域間幹線系統)
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	鉄軌道網の整備が進み基幹的公共交通網は維持されているが、自動車分担率が高い地域であることを踏まえた上で、複数市町村を跨ぐ広域的・幹線的な公共交通網の維持・確保を図る。 実施に当たっては、乗合バス事業者等運営主体と沿線市町村が協力して目標設定、利用促進、利便性・生産性向上検討を行い、事業評価にあたっては、運営主体、沿線市町村が情報交換、意見交換を行って、路線の状況を共有化。